

科目名	ボランティア Theory of Volunteerism						
科目担当者	笠木 秀樹 KASAGI Hideki						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義／演習	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 進路支援科目] 法学部・法律学科 [専門教育科目 進路支援科目]					ディプロマポリシーとの関連	(4)(5)
授業の概要	本講義は、サービス・ラーニングの考えをもとにボランティア論をすすめる。これから社会人となる大学生が市民としてのボランティア活動とは何かを考えるそのきっかけづくりの場となることを目指す。福祉だけでなく、スポーツ、まちづくり、ソーシャルビジネス、CSRを対象とする。それらを捉えて、身近な地域の実態や課題、課題解決のためにどのような形で市民として、主体的に参加し、協働的な活動を行っているかを学び、自ら課題解決の方策を考え、参画する意義について理解を深めることを目的とする。						
授業の到達目標	① ボランティア活動の多様な側面、活動実践について理解する。 ② 市民としてのボランティア活動について、具体的にイメージすることができる。 ③ ボランティア原理である主体性、自主性、創造性を身に付ける。 ④ 他者との協働に求められるコミュニケーション力を身に付ける。 ⑤ 地域を理解し、地域課題を認識することができる。						
授業計画・内容	1	サービス・ラーニングとボランティア					
	2	活動におけるコミュニケーションの重要性 -アイスブレイキング-					
	3	ボランティアの歴史					
	4	ボランティアとNPO					
	5	ボランティア活動の多様な側面① 組織面から					
	6	ボランティア活動の多様な側面② 活動面から					
	7	地域での実践① ゲストティチャーによる講義 日本赤十字社					
	8	地域での実践② ゲストティチャーによる講義 社会福祉協議会					
	9	身近なテーマからのサービス・ラーニングを考える					
	10	実践に向けてのテーマ設定					
	11	テーマに基づく活動の調査					
	12	活動の調査のまとめ					
	13	中間発表					
	14	活動のふりかえり、発表・まとめの再構築					
	15	まとめ これからの活動に向けて					
授業外学修 (事前学修)	次の講義内容について示された内容について事前に調べて確認するとともに、地域を理解するために新聞で情報収集に努める。(毎週2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回学修内容を振り返るとともにボランティアを積極的に行うなど、中間発表を含むレポート作成に関連して自主的に調査・活動に取り組む。(毎週2時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験(中間発表・最終レポート2回)				40%	①②	
	毎時間の発表等やGWの取り組み ミニッツペーパー等(毎時間の提出物)				20%	③④⑤	
				40%	①②③④⑤		
成績評価基準	秀：(評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点80点～89点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点70点～79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点60点～69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点60点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書							
参考文献	岡本榮一編『学生のためのボランティア論』社会福祉法人大阪ボランティア協会 その他、適宜授業で指示する						
その他	ボランティアを志す学生として、授業に対する心構えや熱意が必要である。						